波佐見焼・三川内焼関連年表

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
安土・桃山時代		1573	天正元			室町幕府亡ぶ
				天正年間（1573～1592）頃、波佐見は大村家の所領となる この頃、肥前でやきもの生産がはじまる		
		1582	天正10	波佐見出身の原マルチノが遣欧少年使節の一人となり、ローマへ旅立つ		本能寺の変により織田信長討死
		1585	天正15	少年使節、ローマ法王に謁見		
	波佐見焼・三川内焼のはじまり	1590	天正18	少年使節長崎へ帰着		豊臣秀吉の全国統一
		1592	文禄元	文禄の役。大村家当主大村喜前は、小西行長配下となり戦地へ赴く		
		1594	文禄３	岸岳城主波多氏改易により、岸岳諸窯の陶工離散	岸岳城主改易により一部の陶工が三川内の長葉山に移り開窯する	
		1597	慶長２	慶長の役。喜前、小西行長配下として再び戦地へ		
		1598	慶長３	慶長の役終了し、喜前、朝鮮人捕虜を連れ帰る	平戸藩主松浦鎮信公が朝鮮より陶工を連れ帰り、平戸中野村椿坂に藩主の命により、朝鮮人陶工巨関（こせき）が開窯する	秀吉没
		1599	慶長４	この年、李朝陶工李祐慶らによる波佐見焼創始の言い伝えあり。永尾山神社に「当山元建慶長四亥年」銘玉垣あり 大村藩ではじめて検地『慶長高帳』		
		1600	慶長５	慶長年間（1596～1615）に三股山開く『郷村記』		関ケ原の戦い
江戸時代		1603	慶長８			家康、江戸幕府開く
		1605	慶長10	この頃、三股山開く『皿山旧記』 この頃、江戸期の波佐見村成立		
	磁器の誕生	1607	慶長12	大村藩、「御一門払い」で家臣団の整理を行う		
		1610	慶長15		巨関（こせき）の子、三之丞（さんのじょう）を出生する	
		1611	慶長16			キリシタン禁令
		1612	慶長17	大村藩第２回検地『慶長十七年壬子諸士高帳』		

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
江戸時代	磁器の誕生	1615	元和元			大坂夏の陣
		1616	元和２	喜前死去。李朝陶工と推測されている「秀山」殉死 李朝陶工李参平、佐賀藩、有田で泉山陶石発見		
		1622	元和８		巨関（こせき）は、一子三之丞他家来と共に藩主の命により領内で陶石（陶土）の探索を行い、早岐の権常寺、日宇の東の浦、三川内の吉の田、相木場の四ケ所で発見し、葭の本に仮住し試焼きする 巨関の招きにより唐津椎の峯の高麗媼（こうらいば）は、長葉山開窯に協力した この元和年間より藍絵・赤絵を、今村三之丞始める	
		1634	寛永10		三之丞は江上村（現針尾）三ツ岳にて白磁鉱を発見し白磁焼成を研究、同じに青磁の焼成研究も始める	
		1636	寛永12		三之丞大村領中尾山に陶土を発見し、同地に窯築立し陶業を始める。小柳吉右衛門弟子となる。その後平戸藩公の帰国の下命により小柳吉右衛門に同所を譲り帰国する	
	青磁の時代	1637	寛永14	佐賀藩、有田・伊万里の窯場統合	三川内山に本格的な平戸藩御用窯を開窯	島原の乱
		1639	寛永16		灰釉焼を発明する	鎖国令
		1641	寛永18		三之丞代官兼棟梁を拝命し、今村の姓を賜る	出島オランダ商館開
		1643	寛永20		江永、木原山に皿山役所出張所を設ける 朱泥色焼の逸品を発明する 赤絵焼を始める 製法秘密保護のため技術技法は、一子相伝の制度を設けた 巨関（こせき）永眠	
		1644	正保元	中尾山開く『郷村記』『皿山旧記』		
		1647	正保４	この頃有田で赤絵焼成に成功する		
		1650	慶安３		平戸中野の陶工全員を三川内山に移す	
		1656	明暦２	波佐見焼の創業に尽力したとされる富永治助死去（80）		中国、「海禁令」でやきもの輸出禁止
		1661	寛文元	中尾下山開窯『郷村記』		

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
江戸時代	海外輸出時代	1662	寛文２		今村弥次兵衛、天草陶石を発見	
		1663	寛文３	稗木場山開く『九葉実録』『皿山旧記』		
		1664	寛文４		天草陶石と三ツ岳石の調合に成功する 透かし彫刻物や盛り上げ画、捻り細工物等始める	
		1665	寛文５	中尾下山開窯『九葉実録』『皿山旧記』 稗木場山開く『大村記・波佐見村』	寛文年間：青藍唐子面染付が田中與兵衛尚俊によって始まる。後に禁裏製品となる	
		1666	寛文６	大村藩、三股（現永尾地区）に皿山役所設置 永尾山開く『九葉実録』『皿山旧記』『郷村記』	公議（徳川家）御献上品ご用命を受ける	
		1667	寛文７	木場山開窯『九葉実録』『皿山旧記』 稗木場山開く『郷村記』 波佐見から川棚、出島までのやきもの運搬料『九葉実録』		
		1668	寛文８	「私領内にて先年より少々皿、茶碗焼物出い候…」大村藩主の手紙『大村家覚書』	細工所、代官役所、御番宅等五棟を新築する	
		1672	寛文12		高麗媼（こうらいば）106歳で永眠	
		1679	延宝７	大村藩による「皿山法則」『九葉実録』		
		1681	天和元	天和年間（1681～1684）、波佐見村が上・下波佐見村へ		
		1684	貞享元			中国、「展海令」により輸出再開
		1685	貞享２	大新窯開窯『皿山旧記』 貞享年間［1684～1688）に大新窯開窯『郷村記』		
		1688	貞享５	この頃、稗木場新窯開窯『大村記・波佐見村』		
		1692	元禄５	大村藩による「皿山絵薬」（呉須）の購入開始 元禄年間（1688～1704）頃にまとめられた「大村記・波佐見村」に、稗木場山13軒（窯室）、稗木場新窯６軒、三股山28軒、木場山５軒、永尾山13軒、中尾山39軒の記録		
	くらわんかの時代	1697	元禄10	百貫山開く『九葉実録』「皿山旧記」		
		1699	元禄12		禁裏御献上品御用命ぜられる 寛永以来宝暦年代に亘り諸国より、磁器素地の調合を探知しようと六部又は商人に姿変えて潜入、瀬戸の加藤民吉もその一人であった	

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
江戸時代	くらわんかの時代	1702	元禄15			赤穂浪士討ち入り
		1705	宝永２	波佐見焼売り出しの記録『皿山旧記』		
		1712	正徳２	稗木場山陶工、長与窯（長崎県長与町）を再興『郷村記』		
		1732	享保17	下津深江村（熊本県天草）での開窯に際し、三股の陶工が招かれる『上田家文書』		享保飢饉
		1734	享保19	享保の飢饉の影響で、窯業界不振『九葉実録』 享保年間中（1716～1736）、皿山地区に人形浄瑠璃おこる 現在、長崎県指定無形民俗文化財		
		1742	寛保２	村木に三藩の境を決めた三領石を建てる		
		1743	寛保３	大坂問屋とのやきもの取引開始『皿山旧記』		
		1751	宝暦元		三川内の陶工の一部が、佐々の一ノ瀬皿山に移る	
		1763	宝暦13	高浜焼（熊本県天草）の開窯に、長与窯の陶工招聘さる		
		1772	安永元	安永年間（1772～1781）に編纂された『難波丸綱目』にこのころ大坂で大村藩のやきものを取り扱っていたと考えられる「大村なみ物問屋」の記録		
		1775	安永４	砥部焼（愛媛県砥部町）での磁器創業に際し、長与窯の陶工が招かれる		
		1781	天明元	稗木場山で「ひびれ焼」創始		
		1783	天明３			天明の飢饉
		1796	寛政８	『近国焼物大概帳』によれば、この年、長与皿山31間（窯室）、中尾皿山80間、三股皿山約75間、永尾皿山約20間、稗木場皿山約30間		
		1807	文化４		瀬戸の加藤民吉、目的を果たして瀬戸に帰る （文化文政時代）長崎に平戸三川内焼物産会所設置し、盛んに海外貿易を行う	
		1830	天保元		蘭人が長崎にきて茄菲具を嗜好し貿易を起こす 「本山は我国における茄菲具（薄手兜形茶碗）の製作の元祖にして海外輸出の先駆者なり」	

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
江戸時代	くらわんかの時代	1832	天保３	波佐見で文化・文政（1804～1830）頃、色絵を完成したと伝えられる馬場大助死去（60）		天保の飢饉
		1833	天保４	天保の飢饉の影響で、稗木場皿山窮乏。福田安兵衛、廃窯の危機を救い、「義人安兵衛」と称えられる		
		1835	天保６	この年、伊万里港から積み出された波佐見焼は、３万７百俵『伊万里歳時記』		
		1837	天保８			大塩平八郎の乱
		1844	天保15	この頃編纂された『郷村記』によれば、三股上登窯23軒（窯室）、三股下登窯24軒、永尾本登窯29軒、中尾上登窯33軒、中尾下登26軒、中尾大新窯39軒、稗木場皿山20軒		
		1853	嘉永６			ペリー来航
		1854	安政元		（嘉永安政時代）貿易益々盛んになる 福本永太郎平戸焼物産会所の業務一切を担当する	
		1862	文久２		中里平兵衛須佐焼御用を拝命 金蘭錦付二度焼始まる	
		1865	慶応元		明治維新と共に廃藩置県となり、藩御用窯廃止され民窯として再出発する	
		1867	慶応３			大政奉還
明治時代		1868	明治元			明治維新
		1870	明治３	皿山役所閉鎖 この年、三股山43室、永尾山24室、中尾山48室、稗木場山12室の記録『大村藩史』 この頃より、染付顔料にコバルトを使用		
	明治・大正時代	1871	明治４		満宝山商舗を設立し、平戸焼物産会所の業務を引受ける	
		1872	明治５		従来の大型登り窯（30～40間）を小型化（６～15間）する 有田深川栄左右衛門より錦付紅茶々碗の注文を受ける	
		1875	明治８	「カッパ刷り」始まる		
		1877	明治10		精密なる小物の素地成形に石膏を使用し始める	西南の役

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
明治時代	明治・大正時代	1880	明治13		磁器製碁石の生産を始める	
		1881	明治14	天草陶石の使用『郷存記』		
		1883	明治16	水車唐臼の開始		
		1884	明治17	『東彼杵郡村誌』によれば、この年、上波佐見村では、徳利10万1376本、燗瓶５万8500本、茶碗８万3300組、下波佐見村では、陶器41万7000個を生産	このころより豊島、富田両氏は東京、横浜、神戸、長崎その他の地を往来し販路の拡張に努める	
		1885	明治18		東京上野共進会に出品 透し彫りの技術・技法を会得完成する	
		1987	明治20		磁器製義歯の生産を始める	
		1889	明治22		仏国パリ万国博覧会に出品	
		1890	明治23	この年に書かれた『陶器窯台帳』によれば、中尾地区に10登60室、三股地区に10登75、永尾郷に４登37の登窯あり	長崎県知事閣下によって透し彫り香炉を皇室へ献上 東京上野博覧会に出品	
		1891	明治24	この頃、銅版転写開始		
		1893	明治26		米国シカゴ博覧会に出品	
		1894	明治27		陶磁器製造組合を設立	
		1895	明治28		京都内国勤業博覧会に出品	日清戦争勃発
		1897	明治30	波佐見金山の採掘始まる	蝋を用いて模様を描く技法を考案	
		1899	明治32		陶磁器意匠伝習所を創設	
		1900	明治33		仏国パリ万国博覧会に出品	
		1901	明治34		日本窯業第一回共進会に出品	
		1902	明治35	陶磁器意匠伝習所を中尾地区に開設 稗木場陶磁器意匠伝習所を皿山地区に開設		
		1904	明治37		米国セントルイス博覧会に出品 その他多くの国内共進会に出品	日露戦争始まる
		1906	明治39		陶磁器工業補習学校を創立	
		1907	明治40	上波佐見村陶磁器信用販売組合設立		
		1908	明治41	波佐見銀行創設		
		1910	明治43			韓国併合

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
明治時代	明治・大正時代	1912	明治45			明治天皇崩御
大正時代		1914	大正３	波佐見金山閉山		第１次世界大戦勃発
		1916	大正５		この年以降登り窯から単窯に移行し始める	
		1917	大正６	上波佐見村に電灯ともる		
				中尾地区で鋳こみ始まる		
		1918	大正７	長崎県東彼杵郡陶磁器株式会社設立	工業補習所を陶磁器従弟養成所に改称	ロシア革命
				長崎県東彼杵郡陶磁器同業組合設立		
		1919	大正８	ゴム印利用絵付開始		ベルサイユ条約
		1923	大正12	下波佐見村で村営電気事業開始		関東大震災
		1925	大正14	波佐見における石炭窯の開始（山慶）		治安維持法
		1926	大正15	波佐見銀行など吸収合併し大村銀行設立		大正天皇崩御
昭和時代	昭和時代	1927	昭和２			金融恐慌
		1929	昭和４	この頃中尾上登窯廃窯		
		1930	昭和５	波佐見に長崎県窯業指導所開設　この頃皿山本登窯廃窯色絵磁器で第１回重要無形文化財（1955）保持者となる富本憲吉が波佐見を訪れ、福幸窯で製作に励む		ロンドン軍縮会議
		1932	昭和７		長崎県三川内陶磁器工業組合を設立	
		1934	昭和９	波佐見陶磁器工業組合設立　長崎県史跡天然記念物調査委員を委嘱（古窯跡踏査による調査） 上波佐見村に町制		
		1935	昭和10	洋食器生産開始（小吉陶園）		
		1937	昭和12	上波佐見町に公会堂建つ		日中戦争始まる
		1938	昭和13		県中央会と日本陶磁器工業組合連合会に加入	
		1939	昭和14		肥前陶磁器工業組合連合会に加入	第２次世界大戦勃発
		1940	昭和15	波佐見陶磁器工業組合新事務所落成 やきものの価格統制	第一回共同販売を実施	
		1941	昭和16	陶磁器業企業統制		太平洋戦争始まる

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
		1943	昭和18	海軍食器生産	長崎県陶磁器統制組合を設立 三川内支所となる	
		1944	昭和19	陶製手榴弾生産（今田製陶所　陸軍食器生産）		
		1945	昭和20			太平洋戦争終結
		1946	昭和21	全国陶磁器統制組合解散		日本国憲法発布
		1947	昭和22		統制組合を解散し、長崎県三川内陶磁器工業組合に改名	
昭	昭	1949	昭和24	やきものの価格統制撤廃		
		1950	昭和25	この頃、永尾本登窯廃窯	商工共同組合の組織変更により、三川内陶磁器工業協同組合に改名 釉薬の共同生産を始める	神武景気
		1952	昭和27	この頃、智恵治登窯廃窯　中尾地区大水害		
和	和	1953	昭和28	この頃、石炭窯から重油窯への転換進展		
		1956	昭和31	上波佐見町、下波佐見村合併し波佐見町誕生		国連加盟
		1959	昭和34	第１回波佐見陶器まつり、見本市開催		
		1960	昭和35	畑ノ原窯跡、長崎県史跡指定		
		1962	昭和37		共同販売の一本を実施する	
時	時	1965	昭和40	長崎県窯業指導所を長崎県窯業技術センターと改称		
		1968	昭和43	波佐見焼創業370年祭・陶祖李祐慶の碑・陶碑建立		
		1971	昭和46	長崎県窯業技術センターを長崎県窯業試験場と改称	三川内陶磁器文化センターを新築 この文化センター内に工業組合・３商業組合が入所 常陸宮両殿下おなり	沖縄日本へ復帰
代	代	1974	昭和49		伝統的工芸品産業振興法が制定される 三川内陶磁器工業協同組合が認定を受けるため、申請書を福岡通産局に提出	
		1978	昭和53	波佐見焼、伝統的工芸品産地指定	伝統的工芸品産地として国の指定を受ける 後継者育成事業を開始	
		1979	昭和54	波佐見町古窯跡分布調査　中尾下登窯発掘調査		
		1981	昭和56	畑ノ原窯跡の発掘調査		

時代		西暦	和暦	波佐見焼年表	三川内焼年表	参考
昭和時代	昭和時代	1982	昭和57		三川内焼伝統産業会館を新築設立 工業組合の事務所を館内に移転	
		1984	昭和59	陶芸の館オープン		
平成	現代	1989	昭和64平成元	第１回桜陶祭開催（中尾地区）		昭和天皇崩御
		1991	平成３	中尾上登窯　世界最大級と発掘調査で確認　新聞発表		
		1992	平成４	県立波佐見高校に陶心館完成　長崎県窯業試験場、長崎県窯業技術センターと改称、新庁舎落成		
		1993	平成５	畑ノ原窯跡復元工事完成		
		1994	平成６		古平戸約800点を佐世保市が一括購入	
		1995	平成７		三川内焼伝統産業会館に三川内焼美術館増設完成・佐世保市うつわの歴史館落成	
		1996	平成８	中尾陶芸の里づくり事業完了　世界の窯広場完成　世界・焱の博覧会開催	世界・焱の博覧会開催 三川内焼美術館に古平戸の展示を開始	
		1997	平成９	長崎県指定無形文化財「白磁手ロクロ」保持者に田澤大助氏認定		
		1998	平成10	石丸水雄氏、波佐見古陶磁41点を県立美術博物館へ寄贈。	開窯400年祭を実施 長崎及び東京で三川内焼青華の世界展開催	
		1999	平成11	波佐見焼400年祭開催		
		2000	平成12	５基の窯跡（畑ノ原窯跡・三股青磁窯跡・長田山窯跡・中尾上登窯跡・永尾本登窯跡）と２箇所の窯業関連遺跡（皿山役所跡・三股砥石川陶石採石場）が国史跡（『肥前波佐見陶磁器窯跡』に指定		
		2003	平成15	中尾郷に所在する明治23年に建てられたやきもの卸商家である『中尾山うつわ処　赤井倉』が国登録有形文化財に指定		
		2004	平成16	永尾郷所在の『智恵治窯跡』が長崎県史跡指定 中尾山煙突（８箇所）など、長崎県まちづくり景観資産へ登録される		
		2005	平成17		常陸宮両殿下おなり（全国自然公園大会出席）	